

## Case-5

# リーガロイヤルホテルグループ

大阪政財界の「賓客の為の近代的なホテルを大阪に」という願いのもとに、前身の新大阪ホテルを1935年に開業したことから始まるホテルグループ。旗艦であるリーガロイヤルホテル（大阪）は国内外の多くの要人を迎える場所として歴史と文化発信の中心でもある中之島地区で営業を続けている。客室1,039室、宴会場・会議室を合わせて56室を備え、その他レストラン・グルメブティック、文化教室・ウェルネス事業・ホテル内の一流ブティック街など多方面に渡りビジネスを展開している。



### 【会社概要】

※ 2023年時点

会社名 | 株式会社ロイヤルホテル  
本社所在地 | 〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3番68号  
事業内容 | 宿泊飲食事業

運営施設数 | 13施設  
従業員数 | 1,678人  
客室数 | 1,039室  
(※リーガロイヤルホテル(大阪)のみ)

## CO<sub>2</sub> 排出量可視化ツール導入概要

### 測る



### 『可視化ツールの導入を考え始めたきっかけ・知った場面』 / 『可視化ツールの導入の決め手』

- ・ 東京証券取引所スタンダード市場の上場企業として、サステナビリティの取組が投資家からも重視されており、排出量を可視化してそれに対するアプローチを明確化する必要があった。環境省の事業でトライアル導入。

### 『導入した可視化ツール』

- ・ DeTS(Decarbonising Tourism System)<https://www.dts2050.com/> (提供事業者：東武トップツアーズ株式会社、株式会社バックキャストテクノロジー総合研究所)

### 『導入時期・範囲』

- ・ 2021年にトライアル導入

### 『ツール導入・活用において苦労した点・悩んだ点、対応策』

- ・ 電気使用料金の請求の中にテナントや本社の使用分も含まれており、それぞれがどの程度使用しているのかを明確に把握したいと考えているが、現在は費用分担を明確に把握できていない。今後の課題となっている。

## 効果



### 『導入効果』

- ・人材の採用時も、会社のビジョンや取組（従業員の福利厚生、環境への取組）をみたことが就職の動機になっている、といった旨を面接等で耳にするようになっていく。

### ツール活用に関する今後の取り組み

- ✓万博に向けて、CO2 排出量可視化には継続して取り組む意向である。実施にあたっては、自社の事業内容や体制、可視化の目的に適ったツールの選定や運営方法等も含めて検討して、効果的に取り組んでいく。

### その他の脱炭素関連の取り組み

- ・アメニティは再生プラスチック素材に切り替え、歯ブラシ・ヘアブラシについては回収箱を設置して水平リサイクルを実施している。
- ・エコマーク（エコマーク商品類型 No.503「ホテル・旅館 Version2」にてエコマーク認定）を2020年に取得。
- ・宴会での3010運動の呼びかけを実施。パネル設置や主催者に同意いただけた場合には司会者から呼びかけるなどを実践している。

※3010運動は、宴会時の食べ残しを減らすためのキャンペーンで、「乾杯後30分・お開き10分前」はお食事を楽しみましょうという呼びかけ。

- ・レストランで提供するストローを生分解性のものに転換している。
- ・リーガロイヤルホテルの食品廃棄物（生ごみ）から有機たい肥を製造、それを活用してお米を栽培して、従業員食堂で提供している。食べ物の無駄をなくし、化学肥料や農薬を削減した環境保全型農業に取り組み持続可能な社会の実現を目指している。
- ・連泊は基本的に清掃を行わず、必要な場合はお客様からの意思表示をお願いしている。

※一部グループホテルにおいて



再生プラスチックの  
アメニティ



食品廃棄物から  
循環したお米



エコ清掃マグネット  
(お客様の意思表示用)

### 『活用した補助金等』

団体	補助金名称
大阪府 環境農林水産部	宿泊施設におけるプラスチック使用製品転換促進補助金

2025年大阪・関西万博に向けて、大阪府内のホテル等で提供されるアメニティなどの使い捨てプラスチック製品を代替製品に転換することを支援する補助金。

### 『脱炭素化関連情報の収集方法』

- ・リーガロイヤルホテルグループ内で設置しているサステナビリティ委員会において、情報交換を行っている。